

甲南大学法科大学院入学試験問題について

2017年度秋入学・2018年度春入学
一般入学試験（A日程・8月20日分）

試験科目：憲法

1. 出題趣旨

【第1問】

白山ひめ神社事件（最判平成22年7月22日）を基にした事例問題である。政教分離原則違反が問われる事例で用いられる目的効果基準とその考慮要素を判断枠組として示し、事実に基づいて双方から主張を行うことが求められる。

白山ひめ神社事件では、高裁と最高裁判決で結論が分かれている。これは、同じ判断枠組で同じ事案について判断しても異なる結論が出る可能性があるということであり、本問では設問1, 2でそれぞれ異なる立場から主張することを求めた。

【第2問】

統治分野の基礎知識を問う問題である。

（以下、第1問について）

2. 採点実感

参照すべき判例を誤っているもの、そもそも判例に沿って記述する姿勢のないものが散見され、それらは評価が低くなった。

本問は、事実の評価の仕方で結論が分かれる。点数の差は、事実の評価の説得力の差が大きい。また、判例の理解の程度や文章力（論理性、表現力など）で相当程度の差が出た。

3. 学習方法

法曹を目指す人は判例学習をおろそかにすべきではない。判例は、判決等の論理だけでなく、事実の概要を踏まえて分析、理解、暗記する必要がある。また、事実の評価の仕方について学ぶための一番の教材は、判例である。